

## 踏み跡 < My mountains >

奥多摩

五日市から刈寄山

No.002

昭和36年6月4日

4月に奥多摩の山へ初めて入り、何となく山歩きに興味を持ち始めていたところへ、山岳部に所属していた恩田から誘いが来た。「戸倉三山」のひとつである刈寄山へ行こうという話だった。

井口と関根も誘って同行することになった。

五日市の南西に立つ刈寄山(687m)、白杵山(842m)、市道山(795m)は、この土地の名をとって戸倉三山と呼ばれている。

拝島から乗った五日市線は小さな蒸気機関車に引かれた短い編成の列車だった。

朝から晴れた気持ちのよい日、武蔵五日市駅から桧原街道を遡った。小中野から支流の盆堀川に沿った道に入ると、もう人里はなくただ山と谷があるだけだった。

盆堀川を遡り、弾左エ門沢に入って入山峠を経て頂上に至ろうという計画だったが、道が見つからず、止む無く一本手前の石仁田沢から登ったように憶えている。

地図と実景を確かめながらルートを選んでいく恩田の手さばきにただ感心して付いていただけだったが、山歩きには面白さの他に難しさもあることを知った。

上手い具合に刈寄山の山頂に辿り着くことができた。頂上から舟子尾根越しに見る五日市の町が箱庭のような美しさだった。秋川沿いの緑の中を白い煙を流して走る列車がとてもきれいに感じた。



この山行時にはキャラバンシューズを履いていたので、おそらく4月の初めての山登りのあとですぐに買ったのだと思う。

ただなんとなく山歩きをするやつが出てきたと思うと増え出したのがこの頃だった。

今考えても不思議な空気の我がクラスだった。

以上

<後日談>

この時同行した関根は平成7年11月に、井口は平成15年1月にそれぞれ他界。

二人とも何度か一緒に山歩きをした仲間だった。

恩田と山歩きをしたのがこれが最初だったが、この後何十回も一緒に歩くパートナーになるとは想像もなかった。そしてその恩田も平成28年9月に他界し、この山行のメンバーはついに私だけになってしまった。

(修正・更新:2023年9月)